

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2022年9月8日

【四半期会計期間】 第20期第2四半期(自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)

【会社名】 株式会社アールプランナー

【英訳名】 Arr Planner Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 梢 政樹

【本店の所在の場所】 名古屋市東区東桜一丁目13番3号

【電話番号】 052-957-5860

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 舟橋 和

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区東桜一丁目13番3号

【電話番号】 052-957-5860

【事務連絡者氏名】 取締役CFO 舟橋 和

【縦覧に供する場所】 株式会社アールプランナー東京支店
(東京都新宿区西新宿2丁目4番1号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第19期 第2四半期 連結累計期間	第20期 第2四半期 連結累計期間	第19期
会計期間		自 2021年2月1日 至 2021年7月31日	自 2022年2月1日 至 2022年7月31日	自 2021年2月1日 至 2022年1月31日
売上高	(千円)	13,042,618	15,711,932	28,057,223
経常利益	(千円)	646,407	311,195	1,383,335
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	439,856	203,854	960,020
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	439,856	203,854	960,020
純資産額	(千円)	3,406,533	4,157,797	3,926,610
総資産額	(千円)	20,371,136	24,624,220	22,555,812
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	84.19	38.12	182.05
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	83.42	37.88	180.19
自己資本比率	(%)	16.7	16.9	17.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	343,248	2,541,809	2,456,776
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	95,341	301,079	379,377
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	2,678,799	2,651,442	3,619,034
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	4,684,058	3,035,282	3,226,729

回次		第19期 第2四半期 連結会計期間	第20期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2021年5月1日 至 2021年7月31日	自 2022年5月1日 至 2022年7月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	67.22	44.57

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 当社は2022年2月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第19期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
- 当社は2021年2月10日に東京証券取引所マザーズ市場(現 東京証券取引所グロース市場)に上場したため、第19期第2四半期連結累計期間及び第19期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、新規上場日から第19期第2四半期連結会計期間及び第19期の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
- 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュフローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているものの、経済社会活動の正常化が進み、持ち直しの動きがみられました。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、原材料の価格高騰に加え、円安による為替相場の変動など、国内外の景気については依然不透明な状況で推移することが懸念されます。住宅業界におきましては、住宅ローン減税や金融緩和政策等による低金利環境が続き、また、こどもみらい住宅支援事業等の政府施策により住宅投資を喚起する環境の中で、国土交通省発表による全国の新設住宅着工戸数（出典：国土交通省 建築着工統計調査 2022年6月 月次データ）が、2022年1月から6月の累計で前期比101.6%となりました。当社グループでは新築一戸建の建設を主な事業としており、これに関連する「持家」の新設住宅着工戸数につきましては前期比92.0%と弱含みの動きがみられますが、「分譲住宅（一戸建）」の新設住宅着工戸数につきましては同105.9%となっており、ニューノーマル時代における新たな生活様式の定着や住環境への関心の高まりを受け、戸建住宅が求められる傾向もみられます。

当社グループが事業基盤の拠点を置く愛知県における新設住宅着工戸数（出典：国土交通省 建築着工統計調査 2022年1月から6月までの各月次データ、当社にて累計値を算出）は、「持家」につきましては2022年1月から6月の累計で前期比94.3%となっておりますが、「分譲住宅（一戸建）」につきましては同115.4%となっており、テレワークスペースなどニューノーマル時代の住宅ニーズの変化に対応可能な環境を求める消費者が、購入しやすい価格帯の戸建住宅を求める傾向もみられます。

このような状況のもとで、当社グループは、戸建住宅事業における「注文住宅」×「分譲住宅」×「不動産仲介」のビジネス展開（ワンストップ・プラットフォーム）を推進して、「注文住宅」及び「分譲住宅」で培ったノウハウを相互に利用することで、顧客ニーズに合った戸建住宅の提案を行い、「不動産仲介」においては、戸建住宅に最適な土地情報の収集及び顧客への提案を行ってまいりました。

また、テーマ性を持ったWebサイトやSNSを活用した当社独自のデジタルマーケティングを展開して関心の高い顧客層へ確実に当社グループの情報を到達させるとともに、住宅購入を検討中の潜在層へ幅広くアプローチする効率的な集客を行い、さらに「デザイン」「性能」「価格」の3つの強みを重ね合わせたコストパフォーマンスの高い住宅の商品力により戸建住宅の需要を積極的に取り込んだ結果、販売が好調に推移いたしました。

さらに今後の首都圏エリアでの成長を加速させるため、2022年4月に新たな販売活動の拠点として三鷹展示場（東京都三鷹市）と、大型ショールーム「ARR PLANNER DESIGN GALLERY立川（アールプランナーデザインギャラリー立川）」（東京都立川市）を開設し、将来の持続的成長に向けた設備投資を行いました。東海エリアでは2022年2月に「アールギャラリー栄ショールーム」（名古屋市東区）を拡張移転し、2022年4月には「ARR PLANNER DESIGN GALLERY名古屋栄（アールプランナーデザインギャラリー名古屋栄）」へと名称変更し、さらなるシェアアップのため、新たな販売活動の拠点として2022年4月に豊田展示場（愛知県豊田市）を開設いたしました。

一方で、ウッドショック、ウクライナ情勢の長期化や円安による原材料価格及び資源価格の上昇の影響等により売上総利益が減少し、販売管理費に関しては、住宅展示場等の展開による地代家賃、減価償却費、拠点増加による消耗品費、広告宣伝費、営業人員・設計人員・施工管理人員の積極的な採用を継続したことによる人件費等が増加しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,711,932千円（前年同四半期比20.5%増）、営業利益は395,922千円（前年同四半期比44.2%減）、経常利益は311,195千円（前年同四半期比51.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は203,854千円（前年同四半期比53.7%減）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」とい

う。)等の適用により、売上高は58,648千円減少し、営業利益及び経常利益はそれぞれ9,624千円減少しております。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(戸建住宅事業)

戸建住宅事業につきましては、愛知県及び首都圏エリアの中心である東京都における新設住宅着工戸数(出典:国土交通省 建築着工統計調査 2022年1月から6月までの各月次データ、当社にて累計値を算出)は、「持家」につきましてはマイナスとなっておりますが、「分譲住宅(一戸建)」につきましてはプラスで推移しており、引き続き郊外を中心とした戸建住宅需要は堅調なものとみられます。

こうした中、注文住宅につきましては、ウッドショック等の影響を受けたものの、独自のデジタルマーケティングにより集客につなげ、ブランド力の向上に伴う営業現場での徹底した適正価格での提供により販売棟数が増加しております。

なお、注文住宅の請負工事につきましては、契約の締結から着工・竣工までが通常長期間に及ぶため、販売実績に反映されるまでタイムラグが生じることとなります。

分譲住宅につきましては、「分譲住宅(一戸建)」の新設住宅着工戸数は2022年1月から6月の累計で愛知県において前期比115.4%、東京都において前期比105.3%となっており、顧客ニーズを捉えた土地の仕入れを行うとともに、テレワークの定着など価値観や消費行動が変わり、住宅環境における快適性を求める傾向が強まった結果、販売棟数が増加し、分譲住宅の売上高は好調に推移いたしました。

一方で、ウッドショック、ウクライナ情勢の長期化や円安による原材料価格及び資源価格の上昇の影響等により売上総利益が減少し、販売管理費に関しては、さらなる事業拡大に向けた積極的な投資を行った結果、展示場等の展開による地代家賃、積極的な採用を継続したことによる人件費等が増加しております。

この結果、売上高は15,279,517千円(前年同四半期比20.5%増)、セグメント利益は870,366千円(前年同四半期比22.2%減)となりました。

(中古再生・収益不動産事業)

中古再生・収益不動産事業につきましては、主に中古住宅・収益不動産物件の売却及び賃料を計上しており、売上高は405,958千円(前年同四半期比13.9%増)、セグメント利益は27,020千円(前年同四半期比49.7%減)となりました。

(その他)

その他につきましては、主に顧客紹介手数料及び火災保険の代理店手数料であり、売上高は26,457千円(前年同四半期比180.4%増)、セグメント利益は26,368千円(前年同四半期比179.5%増)となりました。

財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて2,068,408千円増加し、24,624,220千円となりました。これは、流動資産が1,868,744千円増加し、22,699,066千円となったこと及び固定資産が199,664千円増加し、1,925,153千円となったことによるものであります。

流動資産の主な増加は、現金及び預金が191,446千円及び仕掛販売用不動産が217,942千円減少したものの、販売用不動産が2,253,416千円増加したこと等によるものであります。

固定資産の主な増加は、住宅展示場の新設等により有形固定資産が123,383千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて1,837,221千円増加し、20,466,423千円となりました。これは流動負債が2,293,932千円増加し、16,060,881千円となったこと及び固定負債が456,710千円減少し、4,405,541千円となったことによるものであります。

流動負債の主な増加は、顧客等から受領した前受金が449,670千円減少したものの、短期借入金が879,800千円及び1年内返済予定長期借入金が2,242,382千円増加したこと等によるものであります。

固定負債の主な減少は、棚卸資産の購入のための長期借入金が437,360千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて231,186千円増加し、4,157,797千円となりました。

純資産の主な増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益203,854千円を計上し、「収益認識会計基準」等の適用により、利益剰余金期首残高が11,720千円増加したこと等によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて191,446千円減少し、3,035,282千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は、2,541,809千円となりました。これは主として、棚卸資産の増加額2,035,473千円、前受金の減少額449,670千円及び法人税等の支払額380,259千円等による資金の減少が、税金等調整前四半期純利益303,480千円の計上等による資金の増加を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、301,079千円となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出258,399千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は、2,651,442千円となりました。これは主として、短期借入金の純増加額879,800千円及び長期借入れによる収入4,453,800千円の資金の増加が、長期借入金の返済による支出2,648,777千円等の資金の減少を上回ったことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (2022年9月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,371,680	5,371,680	東京証券取引所 グロース市場 名古屋証券取引所 メイン市場	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない、当社 における標準となる株式であ ります。なお単元株式数は 100株であります。
計	5,371,680	5,371,680		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2022年9月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年6月23日 (注)1	5,680	5,369,680	3,995	393,433	3,995	343,433
2022年5月1日～ 2022年7月31日 (注)2	2,000	5,371,680	260	393,693	260	343,693

(注) 1. 譲渡制限付株式報酬としての新株式発行によるものであります。

発行価額 1,407円

資本組入額 703.5円

割当先 当社の取締役(社外取締役を除く) 2名

当社の従業員 2名

2. 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2022年7月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
Ko. International株式会社	愛知県長久手市片平一丁目404番地	1,000,000	18.61
梢 政樹	愛知県長久手市	940,000	17.50
TreeTop株式会社	愛知県長久手市片平一丁目424番地 1	800,000	14.89
古賀 祐介	愛知県長久手市	740,000	13.77
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC) (常任代理人株式 会社三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千 代田区丸の内 2 丁目 7 番 1 号)	177,900	3.31
アールプランナー従業員持株会	名古屋市東区東桜一丁目13番 3 号	98,205	1.82
楽天証券株式会社	東京都港区青山二丁目 6 番21号	36,700	0.68
大芦 重徳	さいたま市北区	32,000	0.59
松尾 志郎	愛知県豊田市	27,900	0.51
JPモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 3 号	26,200	0.48
計	-	3,878,905	72.22

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,366,800	53,668	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式であります。なお単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 4,080		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,371,680		
総株主の議決権		53,668	

【自己株式等】

2022年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アールプランナー	名古屋市東区東桜一丁目 13番3号	800		800	0.01
計		800		800	0.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役常務執行役員 事業本部長	取締役 事業本部長	安藤 彰敏	2022年5月1日
取締役CFO常務執行役員 管理本部長	取締役 管理本部長	舟橋 和	2022年5月1日

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年5月1日から2022年7月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年2月1日から2022年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,381,775	3,190,329
受取手形及び売掛金	60,477	
受取手形、売掛金及び契約資産		54,720
販売用不動産	7,508,511	9,761,927
仕掛販売用不動産	9,266,025	9,048,083
その他	613,532	644,005
流動資産合計	20,830,322	22,699,066
固定資産		
有形固定資産	1,154,327	1,277,710
無形固定資産	26,136	28,331
投資その他の資産	545,025	619,111
固定資産合計	1,725,489	1,925,153
資産合計	22,555,812	24,624,220

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,546,287	2,464,236
短期借入金	4,829,880	5,709,680
1年内償還予定の社債	82,000	82,000
1年内返済予定の長期借入金	3,317,838	5,560,221
未払法人税等	420,191	122,137
前受金	2,099,320	1,649,649
賞与引当金	170,000	147,500
完成工事補償引当金	26,508	29,044
その他	274,923	296,412
流動負債合計	13,766,949	16,060,881
固定負債		
社債	282,000	241,000
長期借入金	4,404,738	3,967,377
資産除去債務	161,844	183,105
その他	13,668	14,057
固定負債合計	4,862,251	4,405,541
負債合計	18,629,201	20,466,423
純資産の部		
株主資本		
資本金	385,888	393,693
資本剰余金	335,888	343,693
利益剰余金	3,205,923	3,421,497
自己株式	1,088	1,088
株主資本合計	3,926,610	4,157,797
純資産合計	3,926,610	4,157,797
負債純資産合計	22,555,812	24,624,220

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)
売上高	13,042,618	15,711,932
売上原価	10,602,608	13,288,855
売上総利益	2,440,009	2,423,077
販売費及び一般管理費	1,730,079	2,027,155
営業利益	709,930	395,922
営業外収益		
受取利息及び配当金	21	29
受取補償金	3,137	246
補助金収入	5,972	1,842
その他	1,691	3,024
営業外収益合計	10,822	5,143
営業外費用		
支払利息	56,259	80,958
その他	18,085	8,911
営業外費用合計	74,344	89,870
経常利益	646,407	311,195
特別利益		
固定資産売却益	3,104	114
特別利益合計	3,104	114
特別損失		
固定資産売却損	257	0
固定資産除却損	144	536
減損損失		7,292
特別損失合計	401	7,829
税金等調整前四半期純利益	649,110	303,480
法人税等	209,254	99,626
四半期純利益	439,856	203,854
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	439,856	203,854

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)
四半期純利益	439,856	203,854
その他の包括利益		
その他の包括利益合計		
四半期包括利益	439,856	203,854
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	439,856	203,854
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	649,110	303,480
減価償却費	87,619	110,947
減損損失	-	7,292
支払利息	56,259	80,958
賞与引当金の増減額(は減少)	8,000	22,500
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	11	2,535
売上債権の増減額(は増加)	9,694	5,756
棚卸資産の増減額(は増加)	1,974,379	2,035,473
仕入債務の増減額(は減少)	396,651	51,273
前受金の増減額(は減少)	667,860	449,670
その他	96,388	29,407
小計	230,974	2,077,353
利息の支払額	66,056	84,196
法人税等の支払額	46,218	380,259
営業活動によるキャッシュ・フロー	343,248	2,541,809
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	60,027	60,028
定期預金の払戻による収入	60,027	60,028
有形固定資産の取得による支出	69,763	258,399
無形固定資産の取得による支出	2,040	6,725
差入保証金の差入による支出	16,007	28,174
その他	7,529	7,779
投資活動によるキャッシュ・フロー	95,341	301,079
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	824,140	879,800
長期借入れによる収入	2,637,700	4,453,800
長期借入金の返済による支出	1,388,040	2,648,777
社債の償還による支出	53,000	41,000
株式の発行による収入	660,754	7,620
その他	2,754	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,678,799	2,651,442
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,240,209	191,446
現金及び現金同等物の期首残高	2,443,849	3,226,729
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,684,058	3,035,282

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

従来は、戸建住宅事業に係る工事請負契約に関して、一定時点で収益を認識しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、一定の期間にわたり充足される履行義務は、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。ただし、期間がごく短い工事については一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は58,648千円減少し、売上原価は49,023千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ9,624千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は11,720千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

住宅ローン及びつなぎローン利用による当社住宅購入者のために当社が金融機関に対して保証している金額は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年7月31日)
顧客(住宅資金借入債務)	190,268千円	126,530千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年2月1日 至2021年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年2月1日 至2022年7月31日)
給与手当	394,604千円	430,140千円
賞与引当金繰入額	93,550 "	93,693 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年2月1日 至2021年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年2月1日 至2022年7月31日)
現金及び預金	4,839,102千円	3,190,329千円
預入期間が3か月を超える定期預金	155,043 "	155,046 "
現金及び現金同等物	4,684,058千円	3,035,282千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2021年2月10日をもって東京証券取引所マザーズ市場(現 東京証券取引所グロース市場)に上場いたしました。上場にあたり、2021年2月9日を振込期日とする公募(ブックビルディング方式による募集)による新株式の発行270,000株により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ274,482千円増加しております。また、2021年3月9日を振込期日とする第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当)による60,000株の発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ60,996千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が385,478千円、資本剰余金が335,478千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年9月8日 取締役会	普通株式	26,854	5.00	2022年7月31日	2022年10月17日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	戸建住宅	中古再生・ 収益不動産	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,676,841	356,342	13,033,184	9,434	13,042,618		13,042,618
セグメント間の内部 売上高又は振替高		525	525		525	525	
計	12,676,841	356,867	13,033,709	9,434	13,043,143	525	13,042,618
セグメント利益	1,119,071	53,699	1,172,770	9,434	1,182,204	472,274	709,930

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、顧客紹介手数料や火災保険の代理店手数料等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 472,274千円には、セグメント間取引消去18,000千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 490,274千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	戸建住宅	中古再生・ 収益不動産	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,279,517	405,958	15,685,475	26,457	15,711,932	-	15,711,932
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,914	196	11,110	-	11,110	11,110	-
計	15,290,431	406,154	15,696,586	26,457	15,723,043	11,110	15,711,932
セグメント利益	870,366	27,020	897,386	26,368	923,755	527,833	395,922

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、顧客紹介手数料や火災保険の代理店手数料等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 527,833千円には、セグメント間取引消去81,000千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 608,833千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	戸建住宅	中古再生・ 収益不動産	計		
注文住宅	4,020,663		4,020,663		4,020,663
分譲住宅	10,688,601		10,688,601		10,688,601
不動産仲介	340,111		340,111		340,111
リフォーム・エクステリア	230,140		230,140		230,140
中古再生・収益不動産		405,958	405,958		405,958
その他				26,457	26,457
外部顧客への売上高	15,279,517	405,958	15,685,475	26,457	15,711,932
顧客との契約から生じる収益	15,277,027	362,088	15,639,115	26,397	15,665,512
その他の収益	2,490	43,869	46,359	60	46,419

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、顧客紹介手数料や火災保険の代理店手数料等を含んでおります。

2. 「その他の収益」は、主に「リース取引に関する会計基準」等を適用して認識しております。

3. 「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28 - 15項に定める経過的な取り扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	84円19銭	38円12銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	439,856	203,854
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	439,856	203,854
普通株式の期中平均株式数(株)	5,224,452	5,347,385
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	83円42銭	37円88銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	48,448	34,458
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

- (注) 1. 当社は、2021年2月10日に東京証券取引所マザーズ市場(現 東京証券取引所グロース市場)に上場したため、前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、新規上場日から前第2四半期連結会計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
2. 当社は、2022年2月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第20期(2022年2月1日から2023年1月31日まで)中間配当について、2022年9月8日開催の取締役会において、2022年7月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	26,854千円
1株当たりの金額	5円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2022年10月17日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年9月8日

株式会社アールプランナー
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
名古屋事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 荒 井 巖

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴 田 直 子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アールプランナーの2022年2月1日から2023年1月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年5月1日から2022年7月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年2月1日から2022年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アールプランナー及び連結子会社の2022年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前題に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前題に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。